

【1 分解説】マイクロレデンシヤルとは？

総合調査部 主席研究員 白石 香織

マイクロレデンシヤルとは、細分化された学習内容に基づき、短期間で得られた成果を認定する「小さな証明」です。大学の学位のように数年単位で学ぶ「大きな証明」とは異なり、数時間から数か月程度で修得できるものを対象とします。

発行主体は大学や専門教育機関、企業などで、多くはデジタル形式で提供され、世界共通規格の「オープンバッジ」が広く利用されています。教育テクノロジーの国際団体である 1EdTech の調査によれば、オープンバッジの累計発行数は 2022 年時点で約 7,478 万枚に達し、2020 年比 73% 増と急速に拡大しています。

背景には AI やデジタル化に伴う「スキルの陳腐化」が進み、従来の学位では社会の変化や人材ニーズに対応しきれない状況があります。マイクロレデンシヤルは、企業にとっては即戦力人材の採用・育成に、個人にとってはスキルの可視化とキャリア形成に役立ちます。

今後は国際的な相互承認や大学教育との接続が進む見通しです。EU やオーストラリアでは国家レベルでの共通フレームワークを整備しており、日本でも文部科学省が標準化を進めています。学びを細分化し社会で活かす仕組みとして、マイクロレデンシヤルは教育・労働市場の鍵を握る存在となるでしょう。

関連レポート

- ・「リスクリング時代に広がるオープンバッジの活用～学びを仕事につなげ、円滑な労働移動へ～」(2022 年 6 月)
<https://www.dlri.co.jp/report/ld/192176.html>
- ・「生成 AI の『底上げ』効果で変わるリスクリング」(2023 年 11 月)
<https://www.dlri.co.jp/report/dlri/290295.html>
- ・「生成 AI が労働市場に与える影響」(2023 年 8 月)
<https://www.dlri.co.jp/report/dlri/273473.html>